

2024年
11月14日(木)

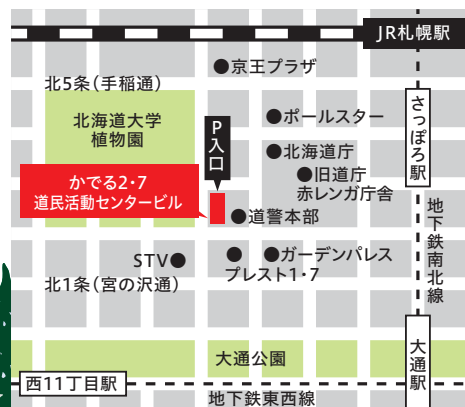
開場13:00

開演13:30 (16:30終演予定)

かでの2・7(北海道立道民活動センター)

4階大会議室

札幌市中央区北2条西7丁目 道民活動センタービル
Tel.011-204-5100



森林環境と 災害の源流を たどって

北海道森林土木設計協会

創立30周年記念講演会

北海道森林土木設計協会が活動するフィールドに、いま、なにが起きているのか。猛禽類の生息状況から森林環境の健全性を、二つの巨大地震から災害の背景を見直し、森林の多様な機能の維持のために、私たちが取り組むべきことを考えます。

入場無料

※お申込みは不要です。
当日会場へ
直接お越しください。

主催:北海道森林土木設計協会

後援:北海道

希少猛禽類との共生を目指して
～環境治療の最前線から～

わたしが観てきた
自然災害、調査・研究から



猛禽類医学研究所代表、獣医師
齊藤 慶輔
Keisuke Saito

日本獣医生命科学大学獣医学科卒業。1994年より、環境省釧路湿原野生生物保護センターで野生動物専門の獣医師として活動を開始。2005年に猛禽類医学研究所を設立し、関係する行政や企業などと協力しながら「環境治療」に取り組んでいる。テレビ番組「プロフェッショナル 仕事の流儀」「ダーウィンが来た!」などで活動が取り上げられ、反響を呼んだ。

猛禽類医学研究所では、釧路市を拠点に絶滅の危機に瀕した猛禽類の救護や傷病原因の究明、事故などの予防活動を行っています。傷ついた野生動物の救命に努めるとともに、負傷や疾病の原因を徹底的に究明し、人間活動が要因の場合は、責任をもって再発防止に向けた対策を進めていくことが大切です。講演では、生態系や自然環境を健全で安全なものへと治してゆく「環境治療」について解説します。

北海道大学名誉教授
平川 一臣
Kazuomi Hirakawa



東京都立大学大学院理学研究科地理学博士課程修了理学博士。氷河の消長と下流の平野の形成史に関する研究は、地形発達史研究、第四紀研究に大きな影響を与えた。また、津波堆積物研究から2007年に超東海地震が起きたとする報告を発表。その後、東北地方太平洋沖地震で大規模な津波が発生したことで、先駆的研究が大きく注目されるようになる。

元旦の夕刻、テレビやラジオから流れ続ける能登半島地震の警戒情報を聴きながら、あるいは直接に揺れを感じながら、何を思ったろうか? マグニチュード8? 大津波? 家屋倒壊?... その判断理由は?、2011年3月11日に東日本大震災を引き起こした超巨大津波の挙動、近地の2018年の北海道胆振東部地震などから学んできた自然の猛威について、温故知新を意識して語ります。



北海道
森林土木
設計協会

お問い合わせ

北海道森林土木設計協会 事務局
Tel. 011-241-3753
info@hfceda.jp

ホームページ
<https://hfceda.jp>
二次元バーコードはこちら

